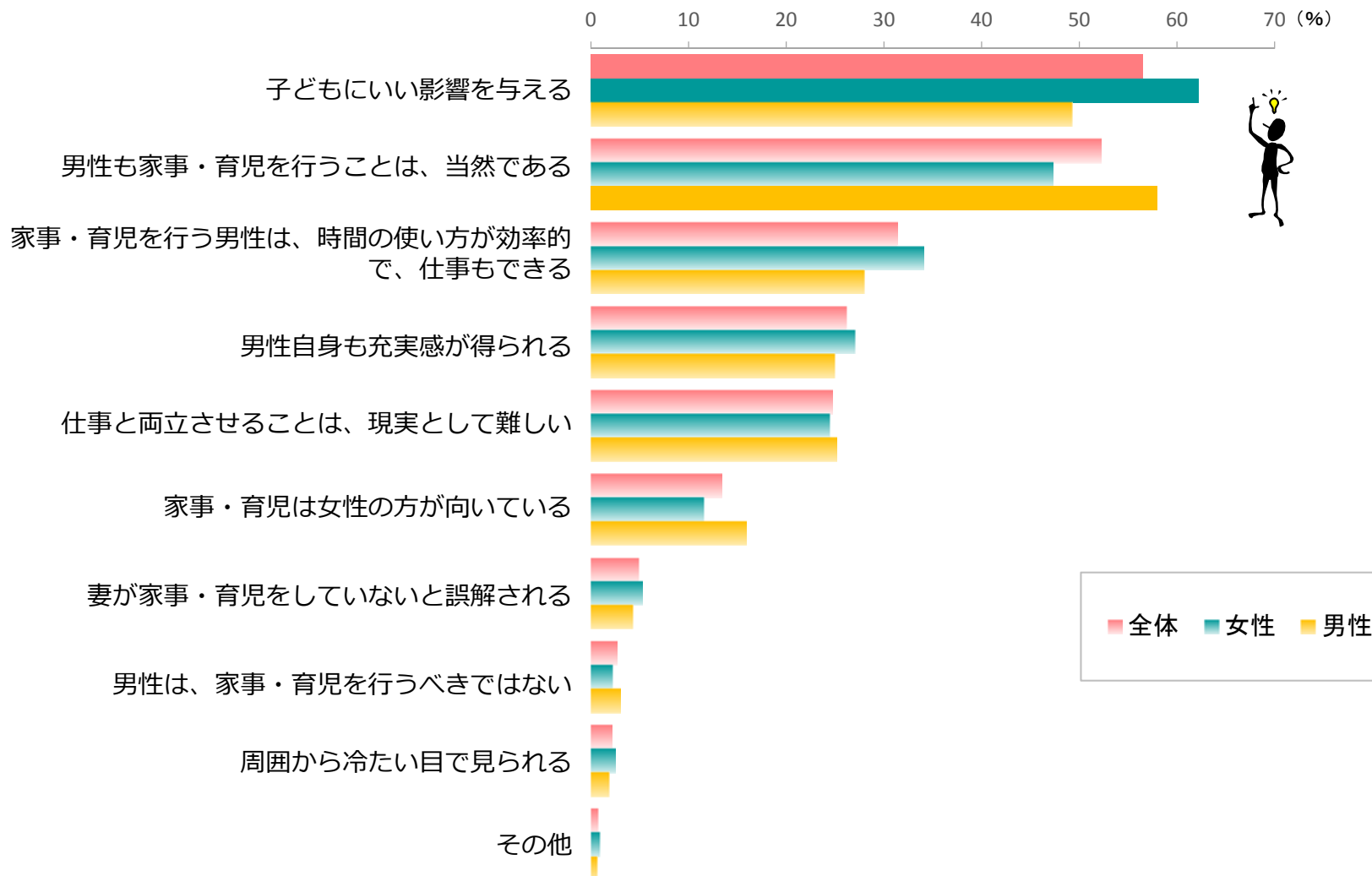


男性の家事・育児参画へのイメージ

- ▶ 平成26年度調査によると、男性は「男性も家事・育児を行うことは、当然である」、女性は「子どもにいい影響を与える」が最も多い回答になっています。

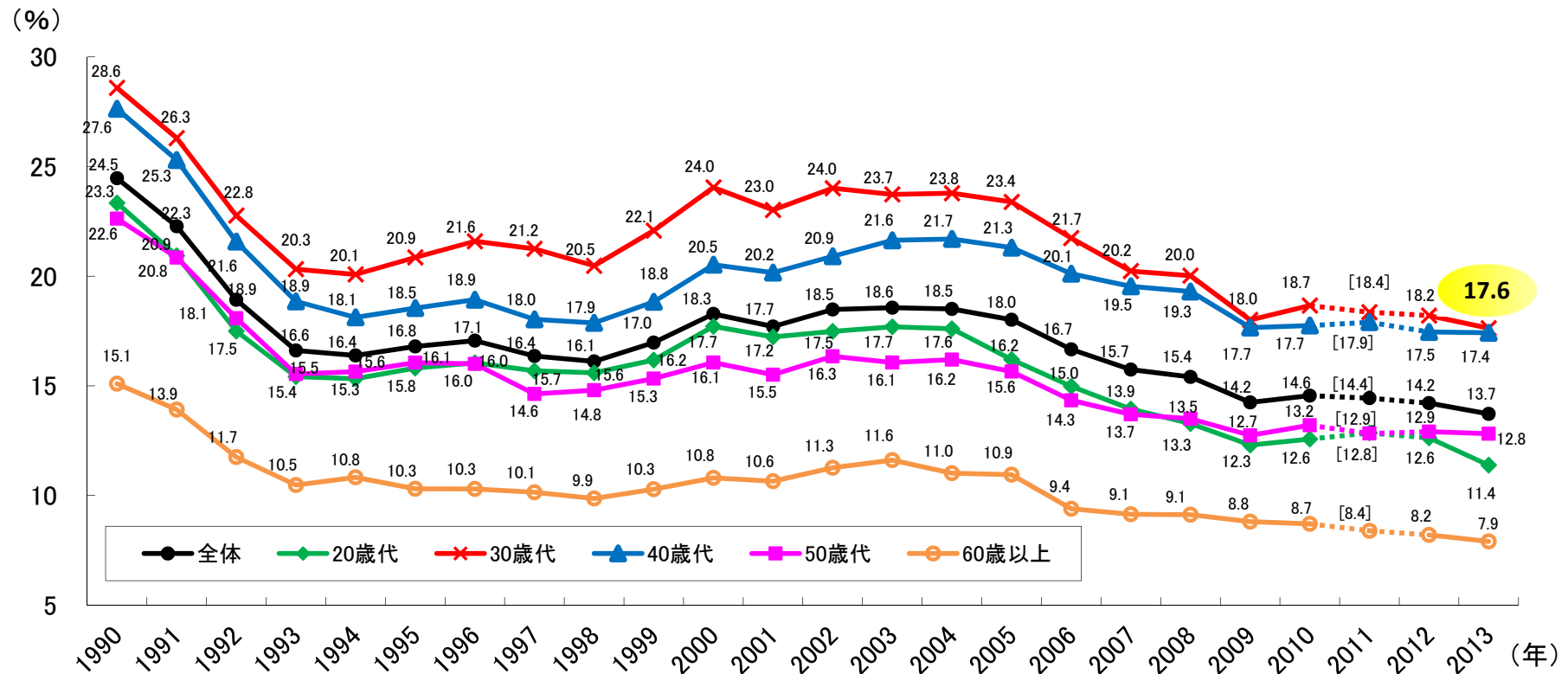
男性が家事・育児を行うことについてのイメージ（複数回答）



男性の労働時間

- ▶ 週労働時間60時間以上の男性就業者の割合は、30代が最も高く、次いで40代が高くなっています。
- ▶ 長期的には減少傾向にありますが、依然として高い割合で推移しています。

週労働時間60時間以上の就業者の割合(男性・年齢別)

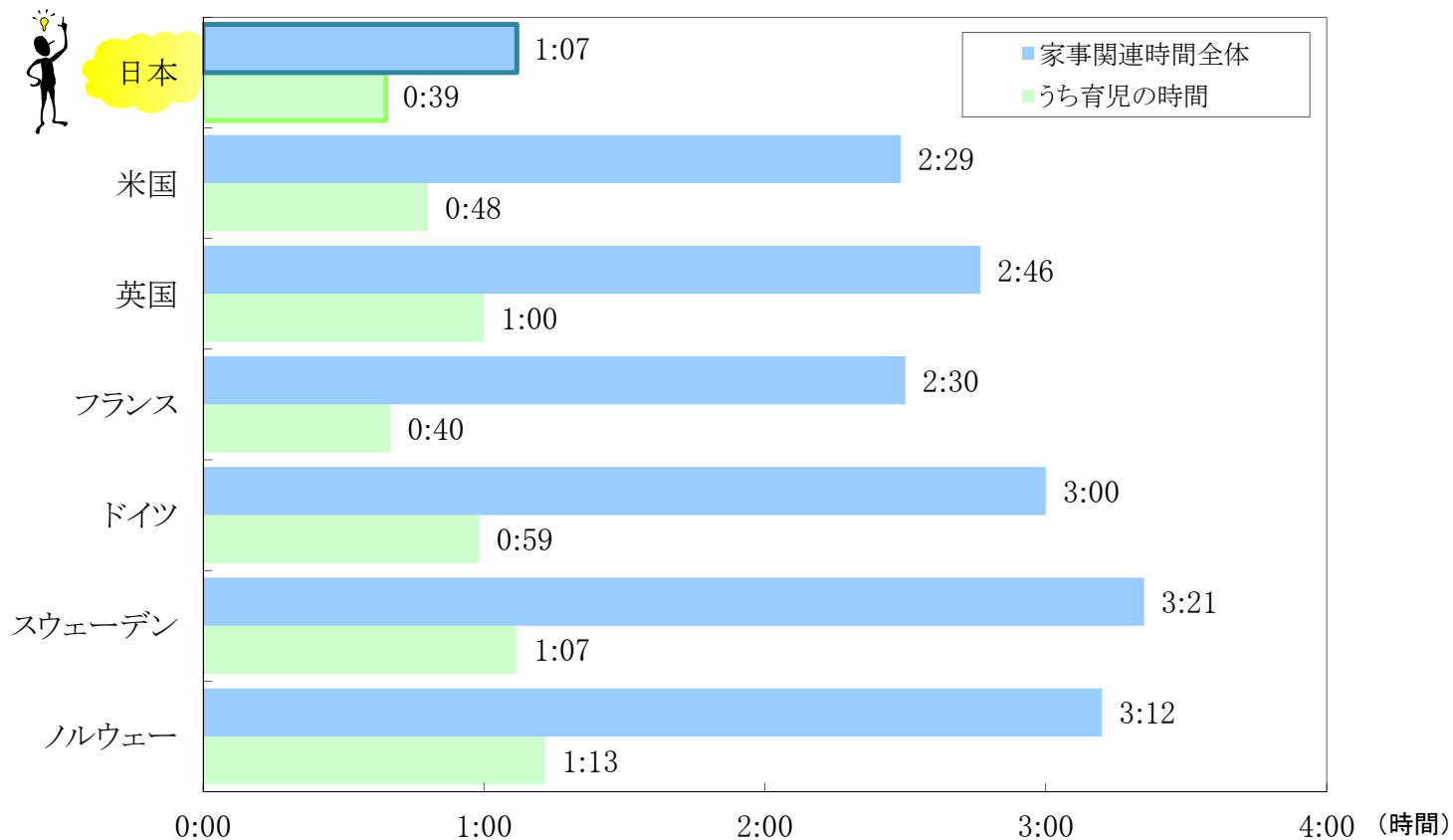


(備考) 1. 総務省「労働力調査」より作成。
 2. 数値は、非農林業就業者のうち従業者総数に占める割合。
 3. 2011年の[]内の割合は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

男性の家事・育児参画時間

- ▶ 諸外国に比べ、男性の家事・育児参画時間は低水準となっています。

6歳未満児のいる夫婦の夫の家事・育児時間(1日当たり)



- (備考) 1. Eurostat “How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men” (2004),
Bureau of Labor Statistics of the U.S. “American Time Use Survey” (2011) 及び総務省「社会生活基本調査」(平成23年)より作成。
2. 日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間である。

男性の育児休業取得意向と実際

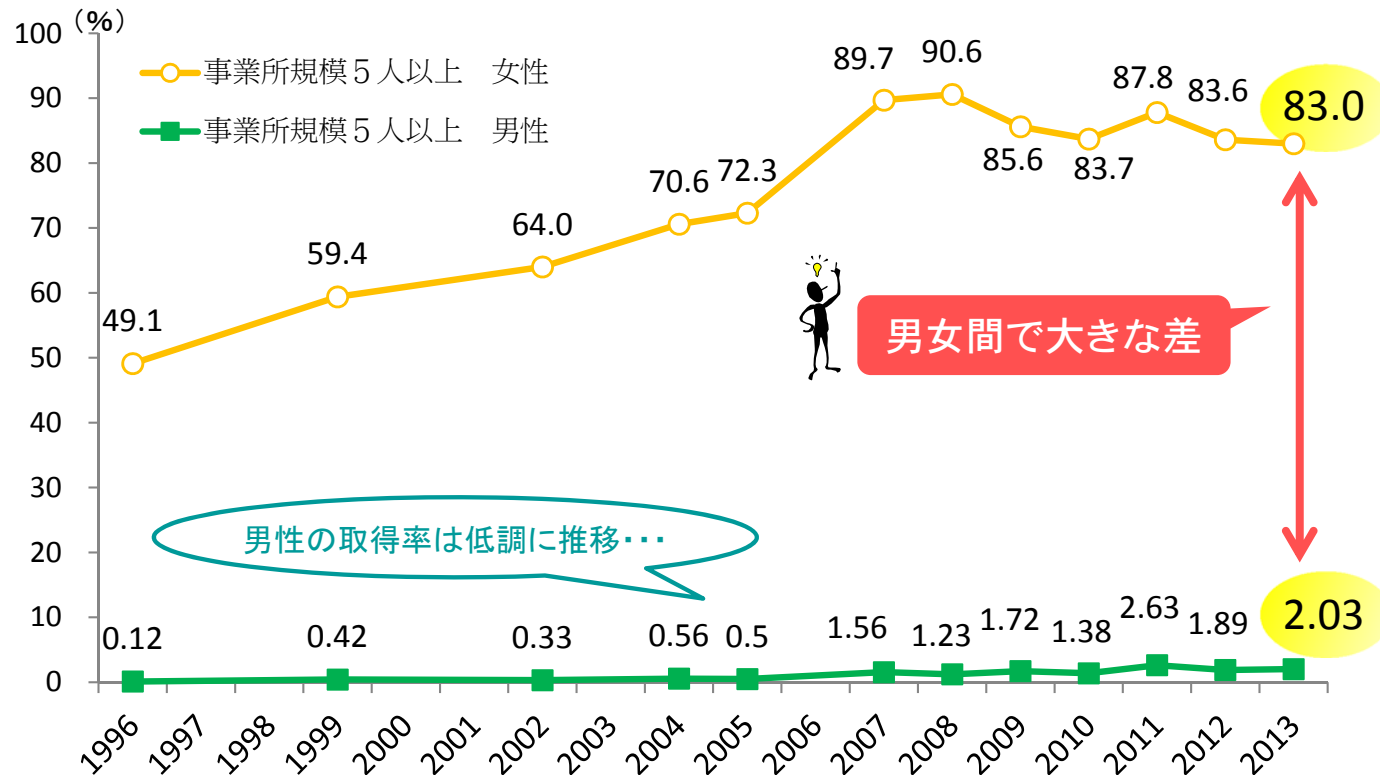
- 育児休業を取得したいと考えている男性は、3割を超えています。
- 男性の育児休業取得率は長期的には上昇傾向にありますが、低調となっています。

両立支援制度の利用意向

	全体	男性	女性
調査数(n)	1,553	752	801
育児休業制度	50.9%	31.8%	68.9%
育児のための短時間勤務制度	48.9%	34.6%	62.3%



育児休業取得率



厚生労働省
「今後の仕事と家庭の両立支援に関する調査結果」(2008年)より作成

- 厚生労働省「雇用均等基本調査」より作成。
ただし、2007年以前は、厚生労働省「女性雇用管理基本調査」による。
- 数値は、調査前年度1年間(平成23年度以降調査においては、調査開始前々年10月1日から翌年9月30日までの1年間)に配偶者が出産した者のうち、調査年10月1日までに育児休業を開始した者(開始予定の申出をしている者を含む。)の割合。
- 2010、2011年度の値は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。